

### (3) 身近な水環境の全国一斉調査

#### 1) 身近な水環境の全国一斉調査とは

河川や水辺など身近な水環境の保全や再生に関する市民の意識が高まる中、1980年代半ばから、市民や学校の子供たちによる身近な川の一斉調査が多摩川・荒川の流域や霞ヶ浦・琵琶湖の流域など全国各地で行われてきた。しかし、当初は調査の方法、項目の不統一、測定精度が保証されないなどの問題点があり、市民調査の有効活用は難しい状況であった。

統一的な調査マニュアルが作成され、これに基づいた一斉調査として「身近な水環境の全国一斉調査」が実施されるようになったのは平成16年からであり、その後毎年、市民団体等が協働で全国の河川や水辺など身近な水環境の水質を一斉に調査し、「全国水環境マップ」としてとりまとめた結果を公表している。

#### 2) 調査のまとめ

令和3年の調査の概要は以下のとおりである。

表- 28 身近な水環境の全国一斉調査の概要

	全国統一日に実施された調査	国内で実施された全ての調査	備考
調査日	令和3年6月6日(日)を中心に実施	令和3年4月29日～8月9日	—
参加団体数	293団体(個人参加含む)	646団体	令和2年は586団体
調査地点数	1,569地点	5,433地点	令和2年は5,924地点

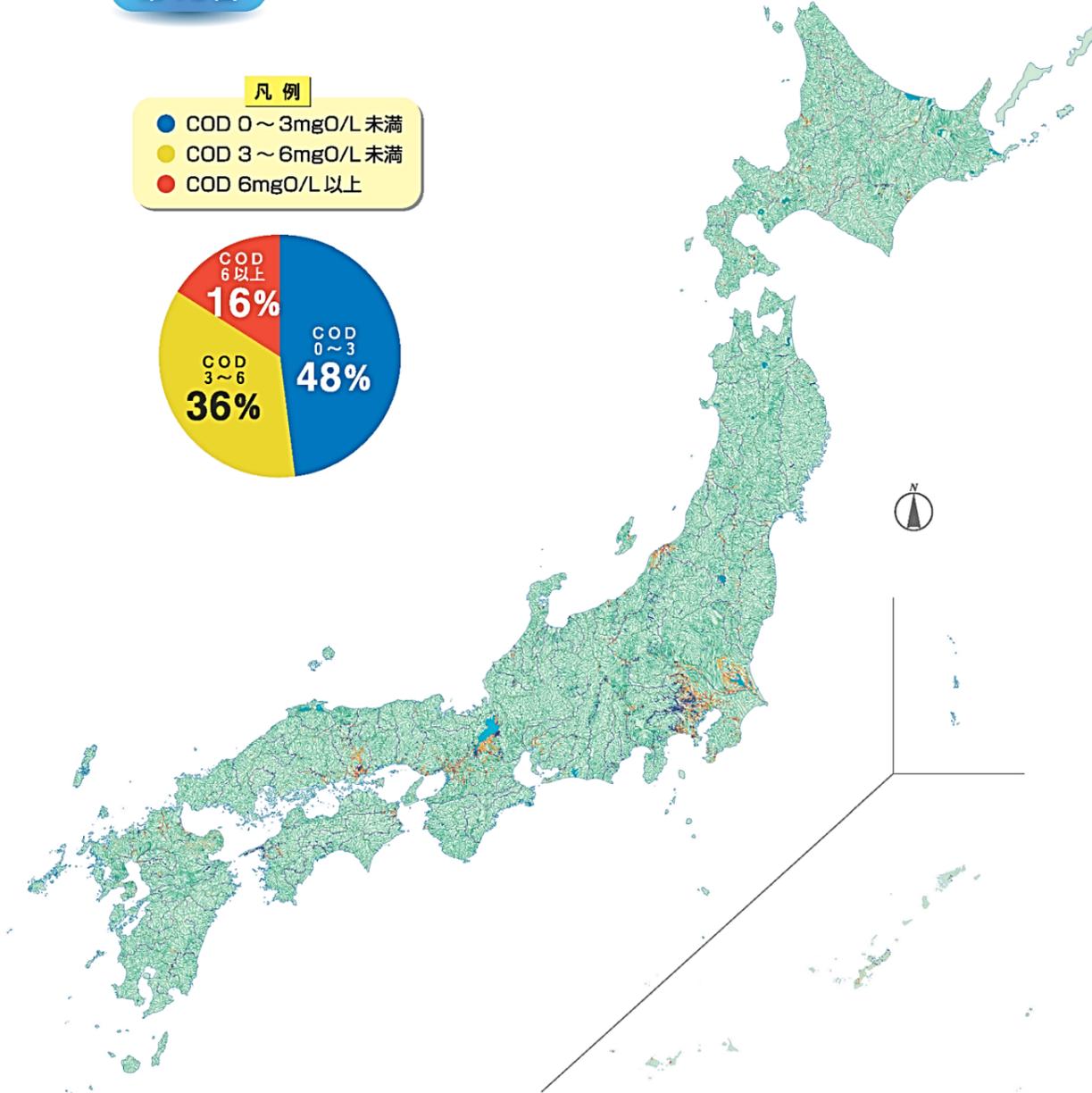
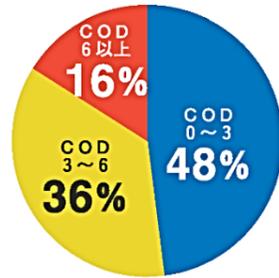
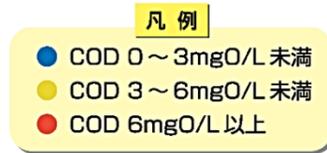
令和3年は、コロナ禍の中、感染対策をしつつ調査が実施され、47都道府県で約5400地点の調査を行うことが出来た。実施日の傾向については、令和2年は調査の期間中6月と7月に広がって実施されていたが、令和3年は6月中の実施が全体の8割だったためコロナ禍以前とあまり差はなかった。

全国の水質調査の結果は、COD0～3mg/L未満の地点が48%、3～6mg/L未満の地点が36%、6mg/L以上の地点が16%という結果になり、令和3年についても水質の良好な地点が多い結果が得られた。

令和3年の全国水環境マップを図- 26に示す。

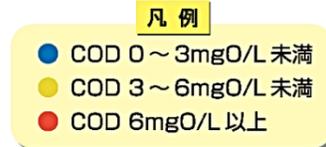
## 2021全国水環境マップ

第18回 身近な水環境の全国一斉調査結果



## 2004全国水環境マップ

第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果  
 水質調査の結果と分布



調査地点数と結果の推移

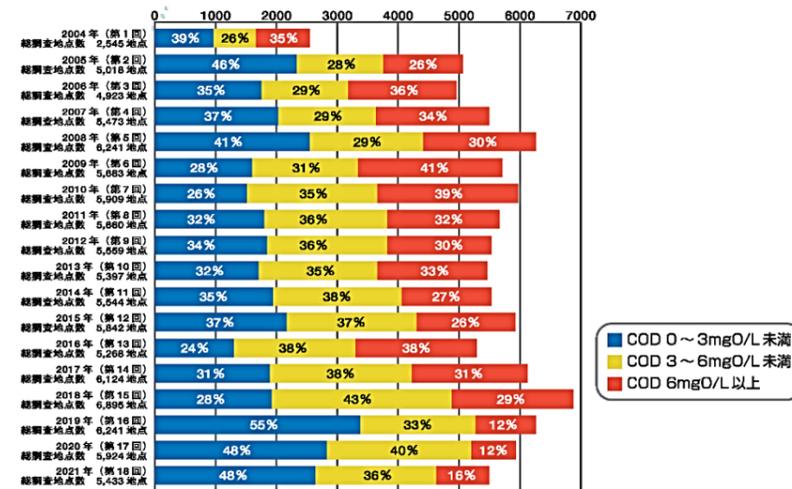


図-26 全国水環境マップ